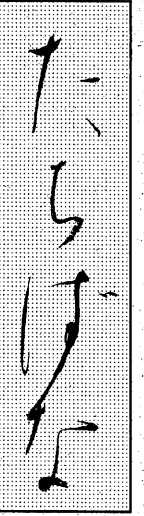


た ち ば な



秋彼岸
九月二十日
二十六日

お彼岸に

仏教の事を考える

私たちは日頃「あの人は馬鹿なことをして・・・」等と、「馬鹿」という言葉を使いますが、実はこの「馬鹿」は古代インドで使われていたサンスクリット語の「モーハ」が「莫訶」・「莫迦」と音写され、いつしか「馬鹿」の文字が当てられるようになったとの事です。「モーハ」とは「事理に暗い」とか「暗愚」という意味で、お経では、「痴」と訳されています。ですから、「愚痴をこぼす」という時の「愚痴」と「馬鹿」は同じ意味なのです。仏教では、この「馬鹿」と「愚痴」も大切な知恵と教えています。「馬鹿」や「愚痴」で覆われています。我が身でも、それを取り除けば、本来の自分の身体の中に宿っている、「仏の種子」が育ち始め、やがて、すばらしい智慧を發揮する事が出来ると教えているのです。人は誰でも一時、「馬鹿なこと」をしたり「愚痴をこぼしたり」しても、花開き実のなる【智慧】を持つているのだと思います。仏教では、「あの人は馬鹿だから見込みがない」と言うような差別的考え方はしないのです。「愚かな考え」、「愚かな行動」は、どのように生きていけば良いのか、正しい道筋を知らないからだと暖かく見ていきます。どんな人にも、やがて、花開き、実が成



水谷 寶清寺

お会式の告知

という可能性を信じ加点していく生き方にこそ、仏教の真の価値があるものと思います。今の、暗い世の中を悲観的に観るのではなくプラスの考え方を対峙したいものです

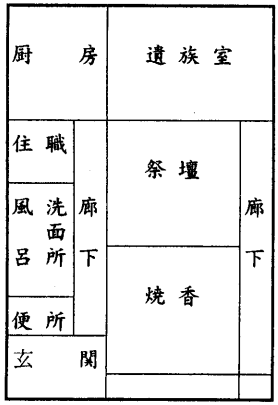
当山でも取り纏んでいきます

大分前からゴミ処理工場から排出されるダイオキシンが環境問題として取り上げられています。実際は何を燃やせばどの程度のダイオキシンが排出されるのか安全の基準は何も分かっていないようですが、この環境問題ダイオキシンが人体に及ぼす悪影響の不安に、煙を迷惑に思う心が結びついて、深刻な問題として意識されています。当山では、早くか

新施設

「水谷庵」報告

平成十四年八月一日より、「私たち」な会館の第一ホール・第二ホールに続いて、第三ホール「水谷庵」(全和室)が使用出来るようになりました。オーブン早々に、小規模の葬儀で使用したいとの依頼があり、家族中心の葬儀が行われました。「水谷庵」は平屋で縦に八畳の部屋が三つ並び、玄関に近い二部屋の八畳の部屋を挟んで左右にそれぞれ一間の廊下があります。真ん中の八畳の部屋に銀屏風を背に祭壇を飾り、玄関に近い八畳の部屋を焼香が出来るよう椅子を並べて通夜・葬儀の飾り付けをしました。



一番奥の八畳の部屋を遺族の控え室として使用し、通夜・葬儀終了後は、遺族控え室の隣の厨房を使用しての業者の会食も、家庭の延長のような雰囲気で行われました。又、法事の後の二十名程度の会食場として使用しましたが、使用された方から、「庭もきれいで料理屋に来たようだ。」と喜んで戴きました。希望される場合は寺務所にお申し出下さい。

「我慢」の中の仏教語

「我慢」は、自己中心的 (本来は自己中心的 という意味)

「我慢」は、普通自分をぐっとおさえること、耐えること、辛抱することなどに使われています。現在では、「我慢」も、「忍耐」も同じ意味でつかわれており、どちらかといえば、プラスイメージの言葉です。しかし、仏教では、「我慢」は決して良い意味では使われていません。仏教では、「我慢」とは、「自分が」という思い、「自分のもの」という思いという意味で使われています。分りやすく換言すれば、「自己中心的な」と言うことになります。「我慢」は、仏教の説く、四煩惱(我痴・我見・我慢・我愛)の中に入っています。周知のとおり、仏教では、「我」を根本的に否定します。しかし、「我慢」という言葉の今日的意味は、苦しいことに耐えて、心を動揺させないという、「忍辱波羅蜜」の心に通ずるものがあるのかもしれない。最近では、「我慢」を「忍辱波羅蜜」の「自分を」、「自分達の生活」を確立するよう心がける必要があるのかもしれない。

お知らせ

- ①、東京西部宗務所立教開宗七百五十年 慶讃総本山「身延山久遠寺」、日帰り参拝旅行、十月二十九日(火)
②、秋川仏教会主催、魅惑の島佐渡の旅 十月二十八日(土)〜三十日(日)二泊三日
※参加ご希望の方は、どちらの旅行に参加されるかをお申し出になり、お電話で、すぐにお申し込み下さい。
尚、詳細をお知りになりたい方は、寺務所にお問い合わせ下さい。